



スクールカウンセラー

つうしん
ホッと☆通信



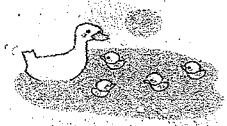
令和6年6月

奈良市立東小学校

スクールカウンセラー 坂本有香

6月になって、これから梅雨の季節に入っていきますが、きっと多くの人が楽しみにしていたであろうゴールデンウィークは、4月からの疲れをやわらげたり、いつもはできない体験を試してみたり…など、みなさんそれぞれに味わいのある時間を過ごされたのではないかと思います。ただ、その頃から6月を迎えるまで、季節外れの暑さの日もあれば、ひんやり涼しさが戻ってくる日、大雨に見舞われる日があったりして、気温や天気が目まぐるしく動いた1か月だった印象です。季節の変わり目、体の調子はいかがでしょう。

今年度も、スクールカウンセラーからのおたよりをお届けできたと思います(初月号、遅くなってしまいました…。)。お時間ある時に、読んでいただけたら嬉しいです。



スクールカウンセラーのつぶやき

「レロレロ酒場」ゲームに感じた、あんなこと、こんなこと…

以前テレビのバラエティ番組で、最近のカードゲームの特集をしていました。案外たくさんの種類があって、色々な工夫もされていて、カードゲームの奥深さを味わいながら興味深く見ていました。その中にあった「レロレロ酒場」というカードゲーム。これは、自分が引いたカードに書いてある居酒屋さんのメニューを、すべて「ラリルレロ」の5音で表現し、そこにいるメンバーは、何のメニューを言っているのかを当てるという内容でした。たとえば、『えだまめ』なら『れられ』、『ポテトサラダ』なら『ロレロラララ』というように。私自身はこのゲームを誰かとやったことはないのですが、カードがなくても「一人レロレロ酒場」をやってみると、なかなかおもしろく(*'▽')。「このメニュー、こんな音の響きになるん!?」(笑)と思わず笑ってしまったり、スムーズにラ行言葉に言い換えることに変に試行錯誤したり…と、自分にとっては新鮮な体験でした。ただ、自ら「一人レロレロ酒場」ゲームにトライしてみたことについては、ツツコミどころ満載ですが(ちょっとハズカシイ… ^_^)

このゲームを知って(一人でやってみて)、シンプルな言葉遊びとしてこんな新しい楽しみ方があることに、何だか嬉しい感じがしました。また、こういう言葉遊びを純粋に楽しめていた子どもの頃の感覚と再会したような、懐かしさを味わっていたようにも思います。まだまだ広がる「遊び」の可能性を感じて、こんな遊びを今の子どもたちや、かつて子ども時代を過ごされてきた保護者の方々、先生方はどう感じられるかな、と思いを巡らせていました。



また、このゲームでやりとりされるコミュニケーションの中で味わう感覚は、日常生活のコミュニケーションの中でも生まれているかもしれないなあと思います。こちら(自分)は伝えたい言葉(このゲームで言えば、居酒屋のメニュー)があるのに、うまく発音できなかったり、ラ行の音に言い換えるのに時間がかかったりして、スムーズに伝わらないもどかしさを抱くかもしれません。でも、聞き手側にも、目の前の人から何かを伝えようとしているのに聞き取れない、何と言っているか想像しづらい、わかってあげられないもどかしさがあるかもしれません。これを日常生活のコミュニケーションに置き換えて考えてみると、「自分の気持ちを伝えたいのに伝わらない(上手く伝えられない)」、「相手の心をわかりたいのにわからない(わかってあげられない)」、そんな時に感じるもどかしさと似ていることもあるような気がしました。ですが、そのもどかしさを簡単にあきらめずに、ヤキモキする感じに耐えながらも、「伝えたい」「わかりたい」の思いを重ねるコミュニケーションの中に、その人同士・そのグループ(集団)にいる人同士の関係性の深まりや、次のステージに向けての展開を感じることもあります。こういったコミュニケーションは、親子関係にも、先生と子どもたちとの関係にも、大人同士・子ども同士の関係の中にもあって、うまくいったりいかなかったり…を繰り返しながら、より豊かな関係性を編み上げています。でも、「レロレロ酒場」ゲームの中であれば、コミュニケーションがスムーズにいかないもどかしさの疑似体験を、安心して、笑い合ったりおもしろがったりしながら、できるかもしれないですね。



今回ここで話題にあげたのは、居酒屋メニューをラ行に言い換える『レロレロ酒場』ゲームでしたが、子どもたち向けには「レロレロマクドナルド」とか「レロレロ給食献立」なんていかがでしょうか☆ もしやってみた人がいたら、そのゲームでどんな盛り上がりがあったか、どんな体験を味わったか、ぜひ教えてください(へー)。